編集後記：先日，静岡県の御前崎測候所と浜岡原子力発電所を見学した．御前崎といえば，台風接近時の強風が最初に思い浮かぶ．御前崎測候所では，測風塔に上りその風を体感した．測風塔の標高は45 m で，周囲には局地的な地形や建物等の障害物はない．従って見晴らしは抜群．当日は低気圧が通過した後で12時の時点で西の風11 m/s．気象庁ホームページによると，10 m/s の風の強さでは，「風に向かって歩きにくくなる」とある．確かに強い．片手を建物から離し，旧式のデジカメで撮影すると，風で大ブレの写真になりそうだ．だが，南東に1.5 km 先の御前崎灯台の風を調べてもらうと西20 m/s とさらに強い．20 m/s の風速は陸上の多くの地域の暴風警報基準に相当する．体感すれば強風の話をするときの説得力も大いに増すというものだ，と意を決し，昼食をとった海岸沿いのレストランから，灯台までの坂道を，息を切らしながら登った．風の強さは場所によって，ほんの数メートルでも大きく違う．ただ，展望スペースでは，何かにつかまっていないと飛ばされそうになり，足元がぐらつく．見晴らしが良いだけに少し怖い．南岸が海に面した断崖では，西風が強いことはわかってはいても，やはり一見にしかず，である．

一方，人類の英知のつまった浜岡原子力発電所の展望室から全景を望むと，建物は遠州灘に面した海辺の丘の一角にあり，周りは木々に囲まれ，高圧送電線が北のほうにのびている．背後には牧の原台地を望むことができる．外の強風とは無縁の静かさだ．しばらく豊かな風景に見とれていたが，そのうち，津波や高潮，送電線への落雷・着雪，はたまた竜巻の心配，大雨による土砂の流出に対する対策等々，次々と質問が出てくる．うーん．施設見学のはずだったが職業意識が染み付いていて離れない…　（牧原康隆）